

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

Bulletin of the National Museum of Ethnology Vol. 3No. 1; Cover, Contents, and others

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-02-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009262

1978・3 3_卷1_号

国立民族学博物館 研究報告

- セニャル儀礼の増殖表象——中央アンデスの家畜増殖儀礼——友枝啓泰
- 新・楽器分類法——櫻井哲男
- 結界について (I)——日本的境界標示装置——垂水 稔
- ハモンド島（トレス海峡）の村落と住居——杉本尚次



国立民族学博物館

〒565 大阪府 吹田市 千里 万国博記念公園 TEL. 06-876-2151

国立民族学博物館研究報告

3 卷 1 号

1978年3月

目 次

セニャル儀礼の増殖表象

——中央アンデスの家畜増殖儀礼—— 友 枝 啓 泰 1

新・楽器分類法 櫻 井 哲 男 40

結界について (I)

——日本の境界標示装置—— 垂 水 稔 63

ハモンド島 (トレス海峡) の村落と住居 杉 本 尚 次 95

彙 報 114

国立民族学博物館研究報告寄稿要項 116

国立民族学博物館研究報告執筆要領 117

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 3 No. 1

March 1978

TOMOEDA, Hiroyasu	Fertility Symbols of the <i>Señal</i> Ritual in the Central Andes 1
SAKURAI, Tetsuo	Reconsidering the Classification of Musical Instruments40
TARUMI, Minoru	Traditional Boundary Markers in Japan.....63
SUGIMOTO, Hisatsugu	Villages and Dwelling Houses of Ham- mond Island, Torres Strait95

彙 報 (昭和52年10月～
昭和52年12月)

人事異動

昭和52年

- 10月1日 奥田貞子を事務官(管理部庶務課)に採用
 那須弘昌を事務員(管理部会計課)に採用
 藤井龍彦(第4研究部助手)は助教授に昇任
 戸塚 明(情報管理施設資料室)は、技術室に配置換
 守屋 毅(愛媛大学助教授教養部)は、第1研究部に配置換
 松澤員子(第1研究部助教授)は、第2研究部に配置換
 11月1日 小川 了を助手(第3研究部)に採用

展示企画委員会専門委員の異動

昭和52年10月1日付けで下記のとおり展示

海外における研究・調査・収集活動

氏名	出発	帰国	行先
松澤 員子(第2研究部助教授)	52.10.3	52.10.17	中華民国
加藤 九祚(第1研究部教授)	52.11.18	53.1.19	ソビエト連邦共和国, ブルガリア
藤井 龍彦(第4研究部助教授)	52.12.5	53.3.22	ペルー
山本 紀夫(第3研究部助手)	52.12.5	53.3.22	ペルー
杉村 棟(第2研究部助教授)	52.12.12	53.3.11	アメリカ合衆国

来館者抄

昭和52年

10月6日	MATTULADA (インドネシア・Director of Social Science Research Training Field Station)	10月20日	Claude LÉVI-STRAUSSE (フランス・コレージュ・ド・フランス教授)
10月7日	Joseph KREINER (ドイツ連邦共和国・ボン大学日本文化研究所長)	10月21日	Constance PERIN (アメリカ合衆国・グッゲンハイム・フェロー) Kuakul SATHIRATHAI (タイ・チュラロンコーン大学文学部長)
10月13日	G. M. D. ONDEI (オランダ・ロ		

企画委員会専門委員が再任された。

辻 三郎 大阪大学教授(基礎工学部)

客員研究部門担当教官

昭和52年10月1日付けで客員研究部門担当教官が下記のとおり発令された。

第4研究部

教授 佐藤信行(広島大学総合科学部)

第5研究部

助教授 田中二郎(京都大学霊長類研究所)

館内合同研究会

昭和52年

10月18日 「南米の神話——火の起源——」

友枝 啓泰

12月13日 「ラウ漁撈民の民俗魚類学の調査より」

秋道 智彌

「アサバスカンの中のクリー・インディアン」

煎本 孝

彙 報

- 10月28日 片寄 俊秀（長崎造船大学教授）
小池 新二（元九州芸術工科大学長）
- 11月2日 Samuel N'DOUMBÉ MANGA（カメルン連合共和国・国立科学技術研究機構人文科学研究所副所長）
- 11月10日 S. D. アニシモフ, Y. I. ルードネフ, M. V. コズリコーフ（在大阪ソビエト社会主義共和国連邦総領事館）
- 11月11日 Georges BALANDIER（フランス・Université René Descartes 教授）
小関藤一郎（関西学院大学教授）
- 11月17日 L. NHIGULA, A. MANEALLE（在日タンザニア大使館）
- 11月20日 Wilaiporn CHAMPLIN（タイ・Tribal Research Center, Chaing Mai）
- 11月22日 吉沢 四郎（京都大学教授）
末石富太郎（大阪大学教授）
- 中澤源一郎（ブラジル日本文化協会会長・ブラジル日本移民史料館建設委員長）
安立 仙一（ブラジル日本文化協会事務局長）
- 11月24日 黒岩 澄雄（京都大学教授）
- 12月1日 Christian POLAK（在日フランス大使館）
大塚 滋（東洋食品工業短期大学教授）
近藤 良夫（京都大学教授）
- 12月2日 服部 幸三（東京芸術大学附属図書館長）
- 12月5日 JONES（オーストラリア教育庁次官）
- 12月6日 陳 荆 和（香港中文大学教授）
エコフォ・ソコンベ（ザイール共和国科学庁副長官）
- 12月9日 長谷川喜代三（奈良女子大学教授）
- 12月19日 辛島 昇（東京大学助教授）
B. SITARAMAN（東京大学外国人研究員）

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
 - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織、運営に関与する者
 - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
 - (3) その他本館において適当と認められた者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のスマ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、審査委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当たっては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市千里 万国博記念公園
国立民族学博物館内
国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表 06-876-2151）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限り、図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたうえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。

[柳田 1942: 67-69]

[Leach 1961: 123]

[柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123]

ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。

[柳田 1942a: 20-22] [柳田 1942b: 10]

9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。
 - (1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。
 - (2) 文献の記載は、著者名、年号、論題(タイトル)、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本文の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』13(4): 311-330。

Bohannon, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14(4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」柳田国男編『日本民俗学研究』岩波書店, pp. 117-143。

Leach, Edmund

- 1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse.
In Eric H. Lennenberg (ed.), New Directions in the Study of Language,
The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

- 1966 『文明をもった生物』 日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

- 1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

- 1974 『シャーマニズム——古代のエクスタシー技術——』 堀 一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

- 1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 3卷1号

審査委員

梅 棹 忠 夫 祖父江 孝 男
中 根 千 枝

編集委員

石 毛 直 道 伊 藤 幹 治
加 藤 九 祚 (編集委員長) 小 山 修 三
垂 水 稔 松 原 正 毅

編集事務協力

石 元 宏 勉

昭和53年3月24日印刷 非売品
昭和53年3月31日発行

国立民族学博物館研究報告 3卷1号

編集・発行 国立民族学博物館
〒565 吹田市山田小川41-1
TEL 06 (876) 2151 (代表)

印刷 中西印刷株式会社
〒602 京都市上京区下立売通小川東入
TEL 075 (441) 3155 (代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol. 3 no.1
March 1978

TOMOEDA, Hiroyasu

SAKURAI, Tetsuo

TARUMI, Minoru

SUGIMOTO, Hisatsugu

**Fertility Symbols of the *Señal* Ritual in
the Central Andes**

**Reconsidering the Classification of Mu-
sical Instruments**

**Traditional Boundary Markers in Japan
Villages and Dwelling Houses of Ham-
mond Island, Torres Strait**



**National Museum
of Ethnology**

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan
phone 06-876-2151

ISSN 0385-180X